

芦生・読図山行

北大阪のぼろう会 (KONK)

井上真由美

2016年10月28日(金)～29日(土)、大阪労山教育遭対部読図チームの有志(CL大西清見・泉州労山、SL野村靖治・豊中労山、井上真由美・北大阪のぼろう会)で「スタンプ講習会・読図リーダー認定の課題」のひとつである芦生の地形を読図しながら歩いてきました。

10月28日午後4時に大阪駅モンベル店前で待ち合わせ、滋賀県高島市朽木道の駅へ直行、道の駅で暮営しました。小雨の降る中、テント内はおいしい香りであふれました。夕食メニューはミニトマト&アンチョビ&シーチキンのペンネ、ソーセージや椎茸のソテー、リンゴ&キュウリサラダ等で、ごちそうにビールやワインも進みました。

29日午前6時起床、7時三国峠登山口に向けて車で移動しましたが 登山口で雨が激しくなってきたらしく車内で待機、雨対策も考えて7時45分に出発しました。最初に予定していた三国峠登山口～クチクボ峠～三国峠～野田畑峠～シンコボ～杉尾峠(京都大研究林事務所許可済み)は、悪天候で時間的に無理ということで、野田畑峠～上谷コースにショートカットすることにしました。

地形図とコンパスで現在地を確認し、また地形図から周辺の地形を読みながら進んでいきました。三国峠手前では地形図には表れていない小ピークがいくつもあり、広い空間に目印のない場所も多く、芦生は読図にとっても面白い場所でした。コンパス頼りに三国峠8時50分(775m)に上ると谷筋と尾根筋の方向が地形図とぴったりで感激しました。

ピーク767を9時35分に通過、この日一番の核心部、810mの北西から南東に走る長方形のピークに着きました。大きな尾根が5本伸びていて下り始める位置を間違えると全く違う方向に行ってしまいます。悪天候やガス、ホワイトアウト等で尾根筋の方向が見えにくいときは難しいなと思いました。コンパスの力を頼り進む方向を決めました。標識と合致してうれしかったです。雨で落ち葉が濡れ、粘土質の傾斜地が滑り、ここで捻挫などすると救助が大変なので慎重に時間をかけて下りました。

1/25,000の地形図では主曲線が10mごとなので、例えばコル708mからピーク712mの場合、地形図にピークは等高線が閉じていても実際には4mしか高くないので体感的にはあまり登ったという感じはありませんでした。地形図をみて想像する地形と実際に歩いた感じが違うこともあることを実感しました。

10時50分野田畑峠(670m)で小雨の中、休憩、食事。静かで美しいところでした。野田畑峠からは登山道のない緩やかな沢の下りでした。いくつかの左右の大きな沢を確認し、何度も地形図を見ながら現在地をチェックして上谷を目指して進みました。昨日からの雨で水量が多く、ジャブジャブと渡渉を繰り返していく沢歩きも楽しいものです。

上谷で自然観察ツアー10数人と出会いました。慣れていないのか、水量が多くなった小さな川が一気に渡れず、一人ひとり順番に足に大きなビニール袋を被せて恐る恐る川を時間かけて渡られていました。私たちは、待ちきれず「お先に」とサッサと渡るとビックリされていました。

12時25分、スタート地点の三国峠の駐車場に到着。車に戻り14時、朽木てんくう温泉で冷えた体をあつため、美味しいイワナから揚げ定食にノンアルコールで乾杯しました。

大阪駅に午後6時過ぎに戻り、雨やガスの中の読図も、とても学ぶことが多く充実した芦生読図山行が無事終了しました。大西リーダー、野村サブリーダー、本当にお世話になりありがとうございました。



三国峠への尾根筋で地形を読む



野田畑峠への尾根歩きは楽しい